

IPPS 日本支部第 25 回和歌山大会へようこそ

この度は、IPPS 日本支部第 25 回和歌山大会にご参加いただきありがとうございます。和歌山大会は 12 年前に和歌山市で開催し、今回は 2 回目になります。初日は和歌山県立情報交流センターBigUを会場に、午前中は研究発表会、午後からは今回初めての試みとして公開シンポジウムを開催します。和歌山県は気候が温暖であることから園芸産業が盛んであり、特に、県南部では冬季温暖で日照時間が長い気象条件と京阪神市場に近い地理的条件を生かし、スターチスや宿根カスミソウ、スプレーギク、ガーベラなどが栽培され、国内有数の産地になっています。特に、日高地方は花きや野菜の栽培が盛んに行われ、施設栽培面積は約 280 ha と県全体の半分近くを占めています。公開シンポジウムは、IPPS 日本支部の社会貢献活動の一環として「スマートな施設栽培で収益アップー環境の見える化と環境制御技術の活用による生産性の向上」をテーマに開催し、主に施設園芸農家や JA、県などの関係機関の方に参加いただきます。翌日の現地見学会では、近畿大学水産研究所、ガーベラの養液栽培農家や大型観光農業を営まれている農業法人、関西でも有数の花き・野菜集出荷施設、園芸団地、和歌山県暖地園芸センターなど、盛り沢山の見学を予定しています。今回の大会では、和歌山県の施設園芸の一端をご覧頂くとともに、わずか 2 日間ではありますが、年に一度の交流の機会として、そして、我が国有数の温泉と紀州の料理を堪能していただき、明日への活力を養っていただきたいと思います。この場を借りて、本大会を開催するにあたって、並々ならぬご協力をいただいた和歌山県果樹園芸課長岩本和也氏にお礼申し上げます。簡単ではありますが、本大会実行委員会を代表して歓迎の挨拶とさせていただきます。

平成 30 年 10 月 20 日

IPPS 日本支部第 25 回和歌山大会 実行委員長 文室政彦